

も 森 林 の 話

第28話
十勝西部森林管理署
三須 隼太

若手職員のコーナーです

20年以上過ごした東京を離れ、帯広に着任し、1年半が経ちました。今年の夏は猛烈な暑さで、「暑すぎて終わったわ」と思ったのも束の間、早くも秋の深まりを感じる今日この頃です。今回は、私が目にした林業について「ここがすごい！」と思ったこと、感じたことなどをお届けします。

【ICTの活用】

① ドローン

近年、誰もが目を奪われるドローン映像をよく目にしますが、ドローンは国有林でも活躍しています。上空から撮影するため、造林地の全体像や、遠方の森林状況の把握に活躍し

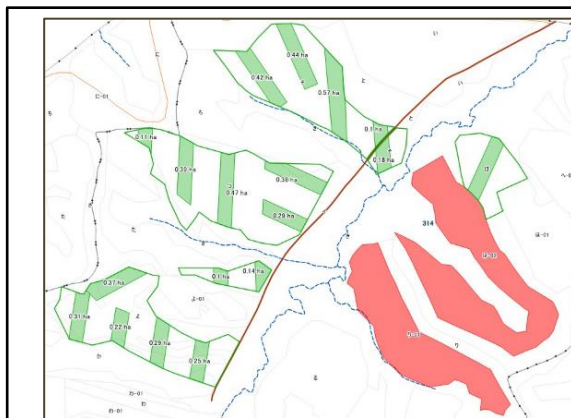


ます。勿論、現地を歩いて確認することも大切ですが、ドローンの効用は業務の効率化だけではありません。例えば、立入が危険な場所も、ドローン写真から三次元化すれば、パソコン上で計測等ができるため、職員の安全確保にも役立っているのです。

② 地理情報システム

読んで字のごとく、地理情報を扱うシステムで、英語の頭文字からGISと呼ばれています。

右の図は、GISで伐採予定箇所を伐採方法別に色分けしたもので、塗りつぶした面積や外周距離を算出できます。作製した資料は公表用となるため、業務に不可欠なツールになっています。



GISは、色分けや面積計算のほか、GPS情報の読込、地図上の距離の算出、紙図面や手書き線をGIS上に反映させた上での図面の作成もできます。また、地理データは容量が小さく、図面の画像データより素早く送受信できる利点もあります。

【最新機械と新しい林業】

先日、ICT搭載ハーベスタ・自動植栽機・開発中の簡易植栽機等のデモが行われました。最新機械を目の当たりにした私は驚きと同時に、導入に向けた課題等を聞き、こうした最新機械の適切な運用を考えていく努力が、未来に美しい森林を残すために重要なのだと感じました。



操縦席のモニターに植栽位置が表示されています。



樹幹の長さや太さを計測し、丸太価格を踏まえた最適な長さにカットしてくれます！

【最後に】

今は林業について一から学ぶ身ですが、ただ業務を覚えるだけでなく、今後、経験を積む中で、「どうしていくべきか」という主体性も含めた高い視座に立って取り組みたいと思います。

「これまでの林業」と「これからの林業」を同時に学べる今を大切に、愚公移山の心と、向上心を常に忘れずに、これからも精進していきます。